

しも疑ない。このウイグル部族が領して居つた *Kūsān* の町といふからには、この名は高昌を指したものと思はれるのは無理もないことで、*Massudi* の書を譯した *Barbier de Meynard*²⁶⁾ を始め、かく考へる人は少くない。それにも係はらず *Kūsān* といふ名は高昌の音譯としては、字音の上からの説明が出来にくいことは既にペリオ氏等²⁷⁾ の論述して居ることである。余はこの *Kūsān* といふのが實は高昌ではなくして龜茲を稱したもので、前掲トルコ文書の *Kūsān* に應ずるものであらうと思ふ。*Barbier de Meynard* の用ゐた *Massudi* の書にはかく *Kūsān* とあるが、*Flügel*²⁸⁾ の用ゐた本にはこの名は *Kūsān* と見えて居り、まさに *Kūsān* と讀むべきである。ウイグルの領して居る町とあるので直ちに高昌をいふたものと見るのは一應尤もであるけれども、然も龜茲も勿論當時ウイグルの領邑であり、その領内に於て有名なる町であつたことはいふまでもない。既に高昌は *Qočo*, *Khoco* 等の形で新疆出土のトルコ語文書中に現はれて居ることの明らかである今日に於ては、たゞウイグルの領邑といふだけの理由で *Kūsān*, *Kūsān* を是非とも高昌に該當させなければならぬ理由はあるまい。余はこれを以て漢史に龜茲回鶻としてよく知られて居るものを指したか、或は傳聞の誤りで、高昌即ち *Qočo* の *Tagazgaz* といふべきところを *Kūsān* の *Tagazgaz* といふたもので、その *Kūsān* は蒙古時代の曲先、古くから漢史に龜茲と記して居るものに外ならず、そしてそれは當時の土語、漢語、梵語等の形ではなく、トルコ人の間に稱せられた形であつたであらうと思ふ。蒙古でこれを曲先即ち *Kūsān* と稱したのはこのトルコ語の形を承けたものに外ならぬであらうと思はれる。かく考へれば前掲摩尼教文書に見える *Qam*(一)や *Sulmi* の名も同様にこれを蒙古時代になつて初めて現はれた名と見るの要なく、文書の時代も蒙古時代まで下げるには及ばない理由を益々明らかに承認することが出来るで